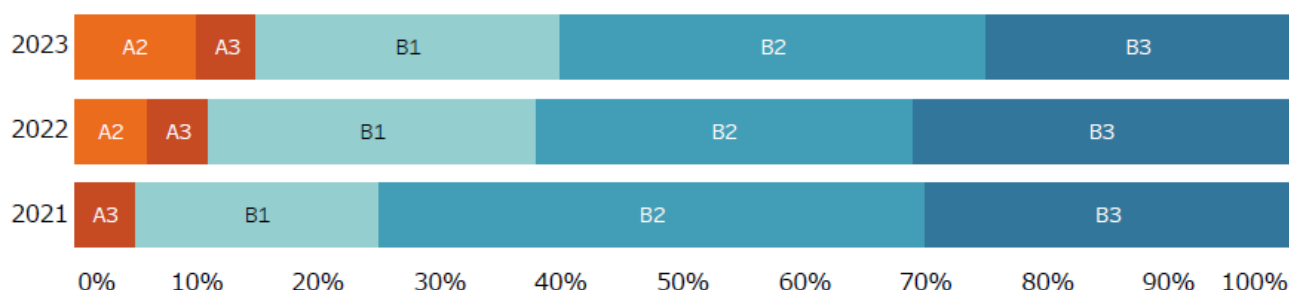


2023年 桜蔭 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。2022年と比べてB2が増えています。問題用紙が3枚と、例年の2枚より1枚多くなっています。大問2で出題された「集合」の問題でスペースを取っている影響と思います。問題数自体には大きな変更はありませんが、今年も手間のかかる問題が多く、息つく間もない入試だったと思います。正確に計算する力、指示通りの状況を正しく具体化する力、もれや重複なく調べる力、情報を読み取って整理する力など、日頃の学びで培った思考力が試される問題構成となります。



大問1は、これまでと同じく計算、一行題でした。(1)は例年通り手間のかかる計算ですが、確実に処理をしておきたいです。(2)は、「歯車」の問題でした。ウの計算処理が重たいですが、ここも正確に得点をしておきたいです。(3)は、桜蔭ではめずらしい「集合」の問題でした。ベン図を用いて情報を整理しますが、②キは3種のベン図となるため、整理しづらかったと思います。B3レベルの問題となるため、ここは後回しにしてもよいと思います。学習指導要領の変更に伴って、入試でも「データの活用」に関する問題が多く見られるようになってきました。資料の読み取り、データの活用など、事前の対策が欠かせません。

大問2は、植木算と速さをテーマにした調べる問題でした。桜蔭らしく、計算の手間がかかります。(2)は、「最後の穴に旗を立て終えるまでにかかる時間」となる点に注意します。歩く距離は、 $1600 - 10 = 1590(\text{m})$ です。(3)は、縦、横で旗を立てる本数に注意します。(4)は、(3)で求めた2人の時間差を利用します。(3)までは得点しておきたいです。

大問3は、ルールを理解して、それぞれの場合を調べる問題でした。ルールに示されている「あいこ」だった場合がポイントです。すると、(1)は、「1回目が3点であいこになる」ことがわかります。(2)もあいこに着目して調べますが、(2)②はかなり手間がかかるため、後回しにしてよい問題と思います。大問4は、立体のくり抜きと速さをテーマにした問題でした。大問4までにどれだけ時間を残すことができたかで差がついたと思います。円柱、直方体の動きを正面、上、横からとらえながら正確に調べます。(4)は、時間切れで取り組みなかった受験生も多かったと思います。

計算、一行題、大問にかかわらず、手間のかかる計算が随所に見られます。数値の複雑さに負けずに素早く正確に計算を処理する力が必須となります。あくまでも予想ですが、大問1(3)②キ、大問2(4)、大問3(2)②、大問4(3)、(4)を落とすとしても、およそ7割には達することができると思われます。